

日本私立大学協会附置 私学高等教育研究所 第68回公開研究会
グランドデザイン答申を読み解く
～私立大学の将来像とは～

日 時：2018年12月7日（金）14:00～17:30（受付：13:30～）
場 所：アルカディア市ヶ谷 6F「阿蘇の間」

昨年3月の文部科学大臣からの諮問を受けて中央教育審議会の大学分科会将来構想部会においては高等教育をめぐる多くの課題についての審議が続けられてきたが、近々答申が発表される予定である。中でも、18歳人口の減少を踏まえた高等教育機関の規模や地域配置、各高等教育機関の役割、高等教育への公的支援や負担の在り方などは私立大学にとっても特に重要な課題である。

今回の公開研究会では、「グランドデザイン答申を読み解く～私立大学の将来像とは～」をテーマとして現在に至る高等教育政策を振り返るとともに、今後の政策の方向性と私立大学の将来像について有識者を招いて考察したい。

1. 「2040年の私立大学像とは」

佐藤 東洋士 氏（桜美林大学理事長・総長／日本私立大学協会副会長／将来構想部会臨時委員）

中央教育審議会大学分科会では、2017年3月の文科大臣諮問に従って大学の将来像について議論していることはよく知られていることである。本公開研究会の時点では、グランドデザイン答申がまとめられているが、2040年の私立大学像について探ることとしたい。

2. 「基幹システムとしての私学—過去、現在、未来」

合田 隆史 氏（尚絅学院大学学長／本研究所客員研究員／元文部科学省生涯学習政策局長）

今回の答申は、従来の「21世紀型市民の育成」のための「政策誘導」という考え方を踏襲しつつ、「多様な発展（質的向上）」と「規模の適正化」を両立させるための「連携・統合」と「地域で描く将来像」を提言しているが、それは私学にとって何を意味するのか。

休 憩

3. 「グランドデザイン答申をどう読むか」

金子 元久 氏（筑波大学大学研究センター特命教授／本研究所客員研究員／将来構想部会臨時委員）

答申には様々な論点が触れられていて必ずしもよみやすいものではない。同時に、触れられている政策にはかなり思い切ったものも少なくない。答申の背後に何があるのか、それと個別案件はどう結ばれているのか、そこから大学人は何を読み取り、考えなければならないか。こうした点を問題提起したい。

進 行 役：西 井 泰 彦（本研究所主幹）

お申し込みは…

日本私立大学協会 web サイト (<https://www.shidaikyo.or.jp/>) “協会トピックス” の本件から「申込フォーム」に記入の上、11月30日（金）までにお申し込み願います。

*会場の都合により先着120名、1機関3名迄とさせていただきます。参加料は無料です。

*ご登録頂いた情報は、本研究所の事業運営の活動に必要な範囲に限り利用致します。

【問合せ先】日本私立大学協会附置 私学高等教育研究所 坂下 景子、遅澤 泰 TEL：03-5211-5090